

寫眞週報

編輯局報情
五月二十日 第二十七號

昭和十八年五月二十日 第八千七百一十一號



戦ふ力は

人の和から生れ出る

人の和は

我々の生活が戦場に通じ お互に

戦友だと思ふことから湧き出でる

戦ふ生活が

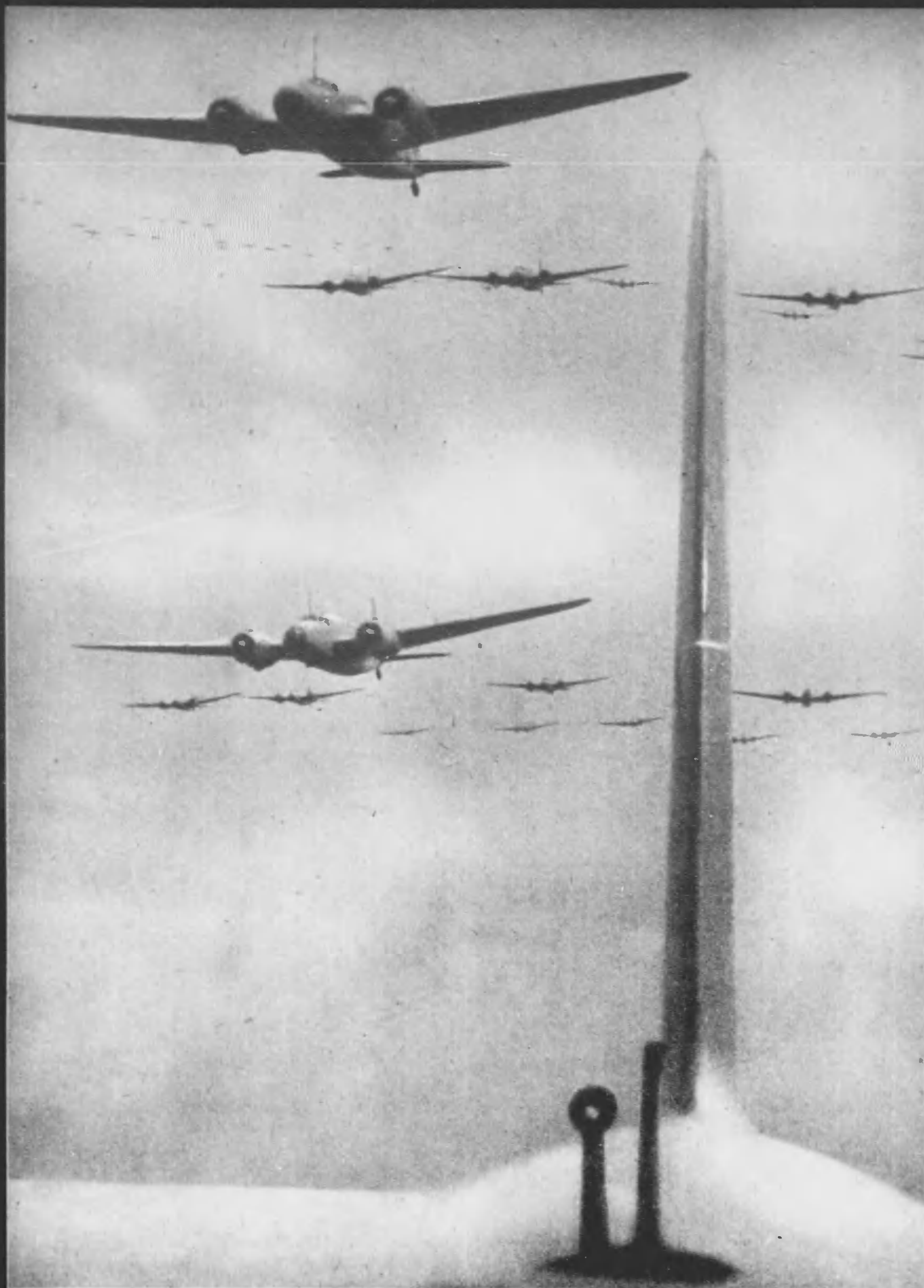
乏しくなればなるだけ

苦しくなればなるだけ

いよく強く いよく明るく

銃後の戦友愛を發揮しよう

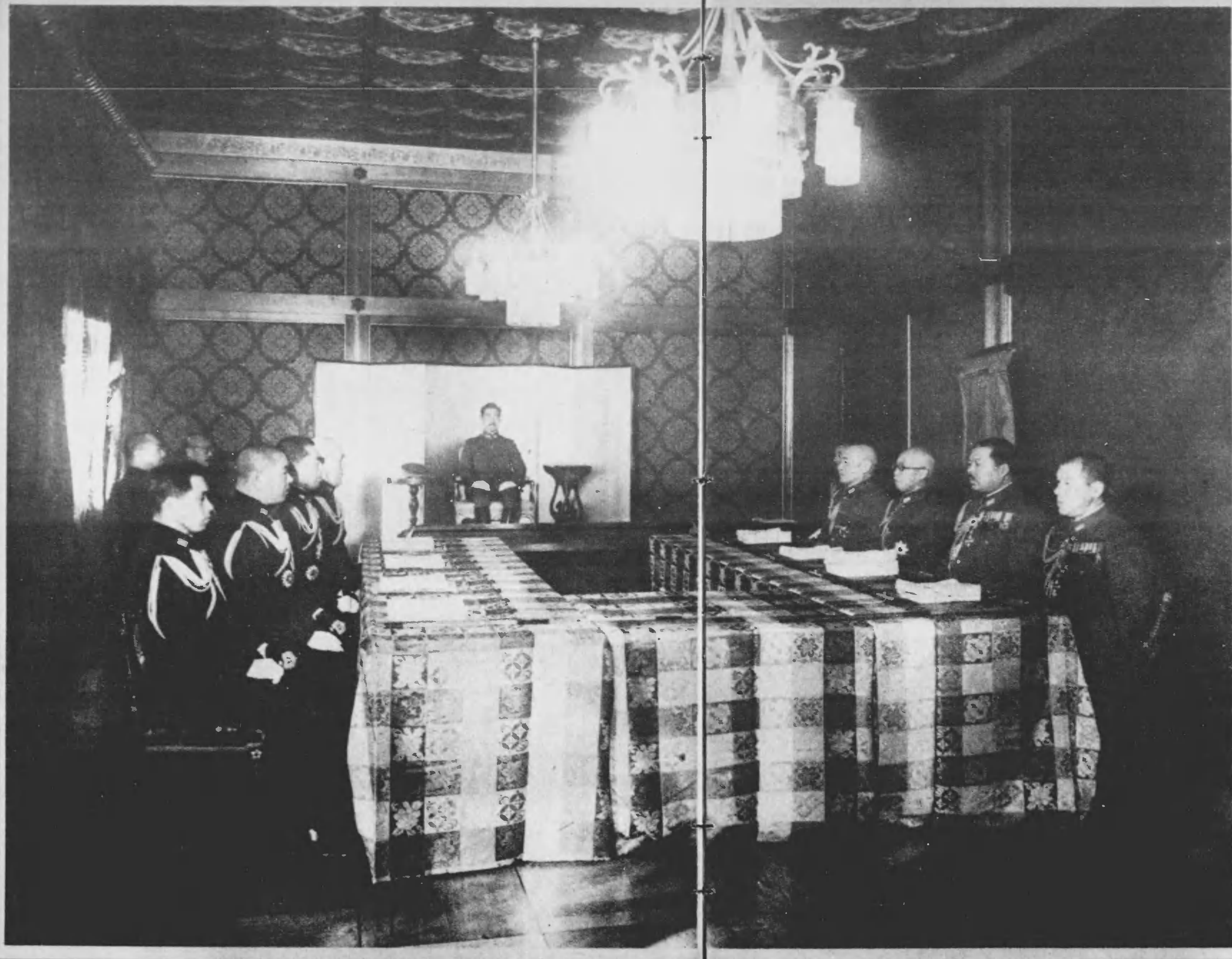
新鋭陸鷲堂々の威容



聖戦の無窮を轟き
まつる天長御親兵式
は四月二十九日、畏
くも 大元帥陛下の
親臨を仰いで練武の
聖野代々木原頭にて、
いと壯麗に挙行せら
れた
空を蔽ふ鋭鷲八百
機、地軸を揺がす鐵
獅子五百輛、さらに
中村諸兵指揮官以下
の陸の精銳數方が
大元帥陛下の御馬前
に繰展げる堂々の決
戦進軍は、いまや北
に南に「撃ちて止
まむ」を標し米英撃
滅に突進する雄たる
皇軍の威容をそのま
まの逞しさであつた

大元帥陛下大本營に親臨

右側 前列上位から杉山元陸軍大將、田邊盛武陸軍中將、磯部精衛陸軍少將、真田雅一郎陸軍大佐、後列連沼基陸軍大將、左側 前列上位から水野修身海軍大將、伊藤新一海軍中將、福留繁海軍中將、山本龍雄海軍大佐、後列東條英機陸軍大將、嶋田繁太郎海軍大將



米英聯軍の戦果赫々として皇威四海に輝く大東亞戦争下天皇陛下には御日出度く第四十二回の御慶辰を迎へさせられた。親しく曠古の大みいくさを御統帥あらせ給ふ陛下には玉體彌が上にも御健やかに、天機ますます麗しくわたらせ給ふと承るは、一億赤子の感激これに過ぐるはなく、大東亞十億の民族とぞつて御慶祝申上げるところである

あらせられてよりこゝに六星霜、晝夜の別なく帷帳の職務をみそなはせられ、深更に及ばせ給ふことも屬、とまれ承るは恐懼の極みであるが、第一線の將兵はもとより、銃後民草のうへにまで注がせ給ふ投き大御心のほどを拜し、みたまわれらたゞく感泣、聖壽の高嶽と皇室の靈榮を祈念し奉るとともに、大東亞戦争完勝に邁進し、もつて聖慮を安んじ奉らんことを御誓ひ申上げる次第である

謹啓 宮内省

大君に命を捧げては 今も戦も日

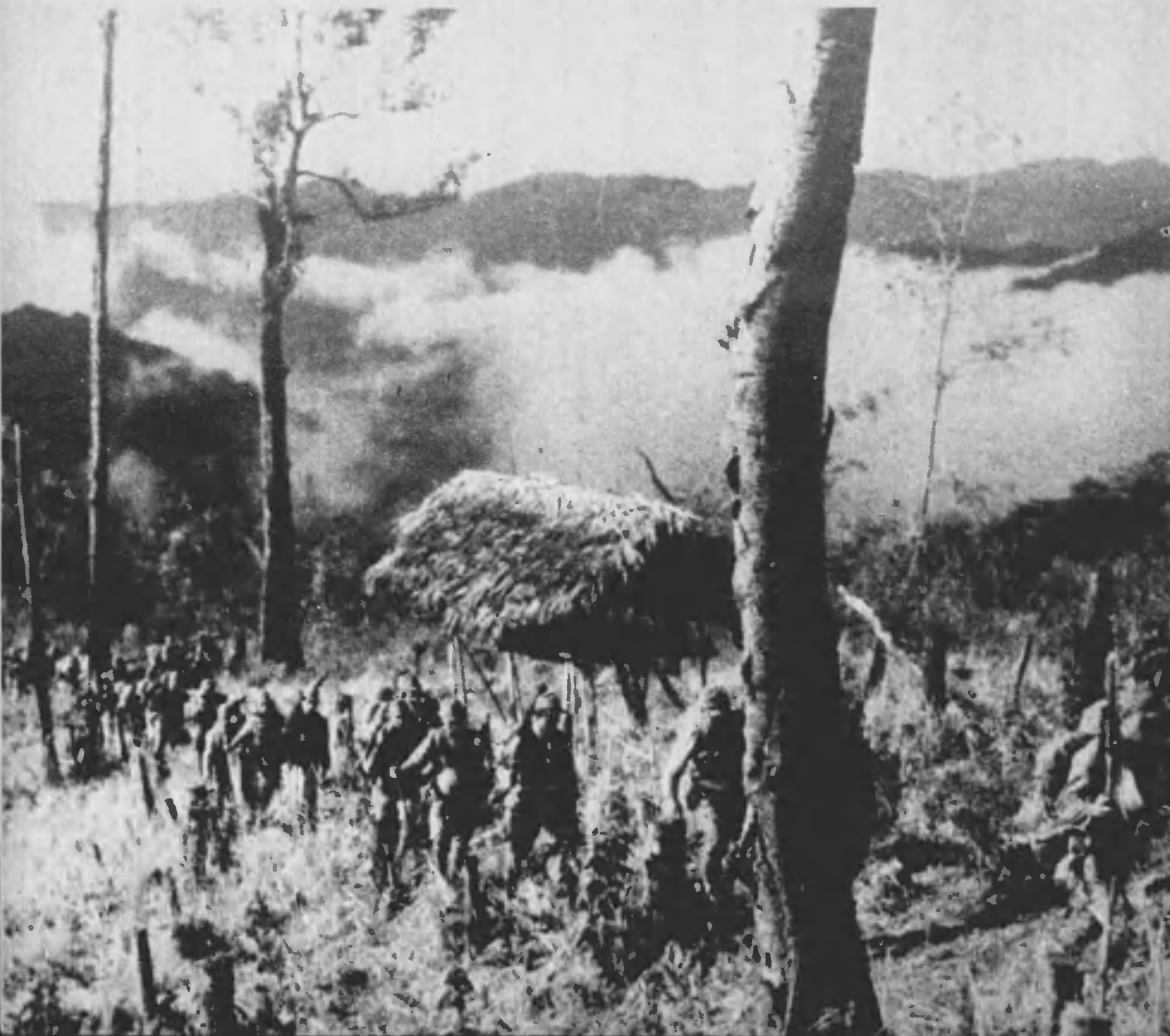


◯ 嶺や洞穴、これが勇士の住居である。一握りの米、これが勇士の糧食である。雨に濡れ、炎熱に灼け、敵の砲撃に明け暮れる、これが守備隊員の毎日である。だが、勇士の全身を燃え立たせるもの、それは断じて撃つ勇気である。南方〇〇戦線から名もなき山を分けての強行軍は今日もまたつづく。敵に逼るのを察し、に重い背骨をがごとくと肩にこらへながら、戦友の遺骨を胸に、勇士は黙々と密林をくぐり、坂を攀ちる。遺骨を包む白布もいつしか戦塵に汚れ果ててゐた。北部印緬境線から長き遠りより御差遣の坪島待従武官はこのほど南太平洋方面第一線を巡視、凡ゆる困苦に耐へて敵撃滅に奮闘するわが將兵に有難き聖旨、令旨を傳達したが、畏き大御心を拜した前線將兵はこの有難さに感泣、敵撃滅の決意を更に深く誓つた。

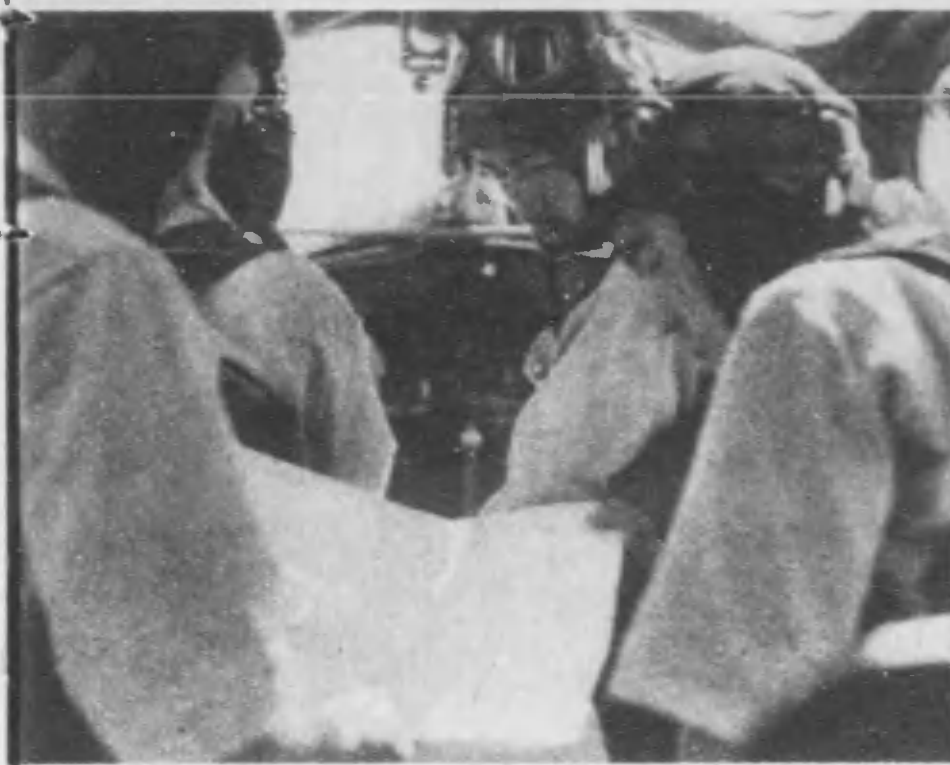


「大君のみ光あればこの戦さ必ず勝たん勝たておくべき」ガダルカナル島に雲霞の米兵を迎へ撃ち、この世とも思はれぬ死闘を續けた勇士の血の絶叫である。また「最早我々はたゞ一切を大君に捧げて米軍を撃つのみ、後に續くものを信じて我々は突撃するのだ」と勇士たちは血涙をしばりつゝ、純一無雜の誠忠に殉じていつた。決戦の様相が一日と尖鋭化してゆく現在、後に續くものわれら、顧みて些かも恥ぢるところはないだらうか

また心を鎮め、静かに喉に描いてみよう……泥濘の中を米俵を擔つた一人の兵隊がゆく。發熱と疲労と空腹で骨と皮、幽鬼のやうな兵隊だ。ダダダ、たつた一人のこの兵隊をめぐって敵機が繰返して舞いでゆく。兵隊は崩れ折れるやうに椰子の根方にうづくまつて敵機をさけた。敵機は遊覽バスにでも乗つたやうな恰好で椰子の柄をかすめて飛び去る。暫くしてやつと起ち上つた兵隊は、また泥濘の中を歩み續ける。あつ！力つきた兵隊は、米俵とともに泥濘の中に轉び伏してし



思った。兵隊はいつでも動かさない……この兵隊は、前線の戦友にや
 りたい一念から自分は食はずに、いや自分が餓え果てることも忘れ切
 ったのだ。われは汚れたる熱帯の空を飛ぶのを禁じ得ない
 しかも、こんな悲惨な状況にあつても、すこしも動ずるところなく
 戦ひ續けた將兵が、たゞ来したことは何んだつたらうか。内地は四月
 十八日以來空襲を受けてはゐないだらうか、東京あたりも十過くら
 ゐやられてはゐないだらうか。それのみである。また内地では食ふも
 のがなく、國民學校の兒童が腹をへらして校庭でベタベタ倒れてお
 るといふデマに對して、一日三勺か四勺きり食べてゐない將兵が「内
 地の人は氣の毒です」と心配してくれた
 東太平洋方面の作戦で壮烈な最後をとげた山口司令官が艦隊長官に
 遺した言葉は「敵の残る一艦に止めを刺す前に、かくなつたことは殘
 念に存じます。どうかこの仇を晴らして下さい」である。また加來艦
 長が沈みゆく艦上で行つた最後の訓示は「戦ひは正にこれからだ。諸
 子の同僚はこの海底に沈みまゐるも、この海上は敵アメリカへの戰
 路として、無数の英魂は萬世かけてわが太平洋を護るであらう。敵米
 英を完膚なきまでに叩き潰せ」であつた
 われら後に讀くものは、たゞこの撃滅路を米英屈辱の日まで突進す
 るのみである



撮影 寺尾
 海軍報道班員
 くる日もまたく
 る日も、アメリ
 カへの突撃路、
 南太平洋の戦を
 闘いて、わが艦
 は哨戒任務に出
 動する
 けふの哨戒任務
 は特に重いぞ。
 艦長を脱いで搭
 乗員は緊張する

ては捧命に君大

へ路撃突土本米も日は驚海



念人の整備が
 あつてこそ、飛
 機の戦果はあつ
 る。地味な任務
 であるが任務
 の下、整備員も
 勞苦は並大抵
 ではない
 男の節句。南
 太平洋の航空基
 地に飛来し、こ
 ける節句に備へ
 てる。自製の時
 計。本男の子の
 節句。本男の子
 本男の子の節句
 本男の子の節句
 本男の子の節句
 本男の子の節句



昨日の激戦に撃
 ちつた。この戦
 果は、この空に
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の
 残る。戦果の





母の慰問袋

南支派遣軍高澤部隊
安江 明治

「おい慰問袋だぞ」と
につこり笑って見て、戦友が
手渡してくれた懐かしい母國からの慰問
袋だ。やうな大きな喜びが
私の頬一面に浮かび上つてきた

もどかしく動く鼠の手の鉄を
賑やかに眺めてゐる戦友の瞳は
生々としてまぶしさをたへてゐるが
その包装の紙に、そのしつかりと結んだ
細紐に
母のあたゝかい真心を感じ
歳どいた優しい姿を思ひ出させる

空襲を利用して入れたお前敵、南京リ
タール、そして英年軍
いづれを手にしてみても
戦後の緊張した生活を切りつめて
送つてくれた魂のこもつた甘い初な
のが

清まない、ほんとうに清まない
何時の曲にかぐつと熱いものが
私の胸一杯に擴がつてくる

「お母さん」と
私は子供の如くはしやきながら
甘えた氣持で遠い故郷の母に呼びかける
ポタ／＼と落ちる汗をぬぐひつゝ、
この最前線の灰色の支那家屋の一隅で
盛夏の戦陣の一時を過してゐる
貴女の子も、そして戦友も
貴女の送つてくれた慰問袋を開んで
こんなにも、をどり上らんばかりに喜ん
でゐるのを

私はいま考へてゐるのだけれど
母國の新緑な大地の香を
こももとの間に、南京豆に
しみ／＼と味はつてゐる
戦陣の無罪な女を
きつと母は夢に描いてくれたらう

私達の慰問

袋に兵隊さ

んは大喜び

戦後の皆さん、慰問文や慰問袋をどつきり送つ
て下さつてどうも有難うとマライ軍の兵隊さ
んから喜報返報を通じてお禮をいつてきました

戦後の下り山中から真心こめて送つて
下さつた慰問袋の到着は第一喜にまさる勇
士の心を打つ

兵隊さんも内地からの財物を蔵く時は感
動に反り給ひますよ。子供の心もマヤを持
つて居るよ。とくさん兵隊さんも一時は真心
こめて送つて下さるよ。見聞兵隊さんの慰問の
袋は、これほど嬉しい少女をいませる其の

「お母さん」と南の海を渡つて慰問袋を
送つて下さる方の真心をこめてつづつて
「〇〇防衛隊の勇士たち」

手紙に頬を紅潮させる。貴重な水砂糖を口
に入れ、嬉しさに泣く兵隊さんもある

慰問袋を戴いた感激は内地を遠く離れた
ものみの味は、得る感激であり、戦後の
人々の有難さをはつきりと身に受けて兵隊
さんは大死小生を誓ふのである
向きの勇士達へ、どうぞ早く送つて下さ
い。慰問袋が去見舞へした。母上の香
いと、お母と同様の嬉しさをいませる



折武運長文
慰問袋

あの日と馬にも



北支那領南山西田内生太郎

落ちる馬、滑る馬

夜が白んできた

天幕の屋根の下に、鞍下毛布に身を包んでごっ／＼と首の上に乗って居た私たちが、ぼつ／＼と雨に濡れてゐた。ぼつ／＼と雨に濡れてゐた。ぼつ／＼と雨に濡れてゐた。ぼつ／＼と雨に濡れてゐた。ぼつ／＼と雨に濡れてゐた。

「お、馬隊長殿の日本馬だろ」と声をのこまかに。下の浅瀬に馬が三頭、横並びになつて死んでゐる。頭を水につけ、背だけ出した白い支那馬。其の間に異様に曲つてゐる黒い支那馬。毛が濡つた、まだ生きてゐるやうな感じはするが、脚をあげて倒れてゐる日本馬。

「かたまつて落ちてゐるぞ」といふ兵隊の聲にも、兵隊が流れ、のぞき込む運しい顔だけ顔に、暗い影が浮かぶ。遠く通つた青い水が、倒れてゐる馬の背を流し、絶え間ない小波をたててゐる。

弾薬、糧秣と重い荷をぎつしりと駄載した〇頭の日本馬、支那馬に、牛さへ混じつた長い隊列が、ぼつ／＼と雨に濡れてゐた。九時過ぎであつた。道は標高八百メートル、たいして高いといへない山を登つてゐるのだが、平地から急に立ち上つてゐるだけ。坂道は険しく、馬は十メートルと歩かないうちに、頭から肩まで汗がびつ／＼と降り出で、むつ／＼と雨に濡れてゐた。呼吸が、風の強い夜の中に通つてくる、重たい支那馬が先導して何時の間にか通り過ぎた跡の音が、長い隊列が續いてゐるやうに、次第に前へ、再び修理しなければいけないのであつた。その上、第一つ着いてゐない間夜なので、それ以上は足もとを濡れ馬で、馬

中へ進ませようとした兵隊は、水の中に見ると、兵隊は馬で水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。

兵隊の言葉に、百メートル位先の水中小舟まで再び重い荷を肩にし、その道を進む。荷は物凄く重く、兵隊は顔を赤くして力を出し、休み／＼進むのであつた。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。

「馬が落ちてゐるぞ」といふ兵隊の言葉に、私は馬の尻尾を見つめてゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。

長い道だ。坂が急なところは、馬は後脚を踏んで、歩かざるを得ない。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。

「馬が落ちてゐるぞ」といふ兵隊の言葉に、私は馬の尻尾を見つめてゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。

「馬が落ちてゐるぞ」といふ兵隊の言葉に、私は馬の尻尾を見つめてゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。

「馬が落ちてゐるぞ」といふ兵隊の言葉に、私は馬の尻尾を見つめてゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。馬は水の中に浮かんでゐる。

「大尉が、首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。

「大尉が、首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。」

「大尉が、首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。馬は首の上から馬の背に上る。」

大東亞戦争日誌

四月

二十三日 ●帝國海軍航空隊は四月二十三日エリス洋島ナフチ島を襲撃し、敵軍施設に多大の損害を與へたることを無事確認した。

二十五日 ●帝國海軍部隊は四月二十五日ワシントン群島カカイ島上空の空戦において新戦闘機六機を撃墜せり、我が方損害なし。

二十八日 ●帝國海軍航空隊は四月二十六日及び二十八日雲南群島飛行場に集結中であり、航空軍を奇襲し、次ぎの襲撃を敢行した。

(一) 襲撃五機 (二) 地上攻撃及び炎上四十一機 (三) 軍事施設の破壊及び炎上二機

我が方の損害、自爆及び未だ確認せざるもの各一機なり。

●帝國海軍部隊は山西、河南省境に展開せる遊撃隊第二十四集團軍約八万及び山西察哈爾河北省境に展開中の共和軍約一万五千に對し四月中旬より自衛を開始し、隨所に敵を撃破しつゝあり、四月二十八日までには明確せる綜合戰果次ぎの如し。

(一) 敵に與へたる損害、遺棄死體約五千、俘虜敵第五軍長將校以下約七千六百、主なる兩糧品、各目大糧十九萬、軍糧糧秣約二百萬、小銃約四千挺。

(二) 我が方の損害、戦死九千六百名。

五月

一日 ●帝國海軍水雷艦は四月下旬南西太平洋方面において敵輸送船二隻(一万二千トン級一隻、六千トン級一隻)を撃沈せり。



手榴弾投擲突撃(左上と右)——カ一平手榴弾を投げるや銃聲を閃かせ、
假想に突撃、閃光を閃先にこめてエイとばかりに突込す。
素引——砂壘を立てての取囲ぶりと白衣勇士の襲撃

學徒の闘魂 戰場運動に燃ゆ

東京

最近の世情にまると、アメリカ空軍の主力、殊に機銃隊の八十パーセントは學生出身者であるといはれてゐる。空軍増強に躍起となつてゐる敵は、地帯に迫車をかけるとともに、航空隊で、科學知識に富む學生を總動員、これに短期間の訓練を施して前線に送り込んでいるのである。

今さら敵の例をひくまでもなく、最近の決戦情勢は、學生にも敵に抗門は熱門に迫するの故を以て、政府は戰場に迫する心を養ふを求むてゐる。今例、文部省ではこの趣に沿つて、戦時學徒體育訓練實施要綱を決定、その目標を「つきりと戦力増強の一助に結集し、國運の推進力である青年學徒の體育訓練を徹底強化することになつた。

従つて今後、男子の體育訓練は、戰場運動の訓練に重きを置いて實施されるわけであるが、學内皆訓練の實をあげるため、正課の時間のない日でも、一日一回以上は必ず全校體育訓練の時間を設けて、これらの訓練種目

戦時 學徒の 體育訓練

の指導に力が注がれることになつた。しかも學徒の體育訓練の基調は、あくまで學校内の修練を第一義とし、學校外の各種大會や試合は、要素の訓練の延長として不審一體の關係が強調され、學徒を参加させる大會や試合は、あくまで戦時下、特に緊要なものを厳選することが必要となつた。また二校間の對校試合

當局の指示した時局認識に燃ゆることとし、訓練、戦時的な修練を重んじてゐる。即ち軍に外軍の競技であるからといふ理由だけで排除せず、また日本的であるからといふ無條件には採用されることがない。つまり一大決戦に備へるために効果的な種目を選び、その特徴をまず「發揮させることに措きられたわけである。

即ち男子學徒の訓練種目は、行軍、戰場運動、銃剣道、射撃、戦技訓練、體操、陸上運動、劍道、柔道、相撲、水泳、スキー、圓球その他適切な球技を基礎訓練、海洋訓練、航空訓練、馬術訓練、馬車訓練を合はせて特技訓練の三つに大別し、殊に戦技訓練に重きを置いて、強健な學生は全部實施しなければならぬ。

次に女子學徒の訓練種目は、體操、陸上運動と遊力、弓などの女子に適切な武道及び水泳、スキー、女子にふさはしい球技をすべて基礎訓練として行はせ、健康激烈な日本の母を育成するとともに、海洋訓練を加へて海洋に親しむ素地をつくることになつてゐる。



障碍通過——われを阻むものは戦時、隨處も何れのもの



東京東部労働青年会

↑ 働き切れや来も十分にもつてゆきませう。きつとほころびや破れが海山あるに違ひないと一日お母さんは明日の準備に細かい心遣ひをしておます

くる明

僕だつてもう大人なみなんだもの、ちつとも淋しくなれないよ。それに、勝つためには何より大事な兵器をつくる少年産業戦士として大きな希望と固い決意に燃えて、この職場にきてゐるのだもの——と、雄々しい気持を上げる少年達だが、何んといつても家にはまだ母親の愛に甘えてゐたい年頃です。幾度か夢に見たお母さんの優しい面輪を仕事の合間にハッと思ひ出して、獨り微笑むこともあるといふことです。何んといつてもお母さんの温かい慈愛ほど、勤勞青少年たちにとつて増産戦を戦ひ抜くための大きな力となるものはありません。遠く全国各地、各地の工場や寄宿舎に起居して増産に熱氣な奮闘をつづけてゐるこれらの少年達に、一日でも身代りのお母さんになつてやつて、親身に世話をしてみませうと「職場の一日お母さん運動」は、いま大日本産業報国会の主唱に應じた大日本婦人會會員によつて全国にまき起されようとしてゐますが、神奈川県藤澤市辻堂の大日本婦人會の會員達は今日も近くの〇〇製鋼會社の少年工の寮に、思ひやり深いお母さん奉仕を続けておりました。

は戦 くる明 りぶんさ母お日一の員会婦日報週眞寫



↑ お忙しいだらうに、今日も僕達の世話にきて下さるんだなあ。さうだ、仕事に一生懸命になつて、きつとこのお母さん

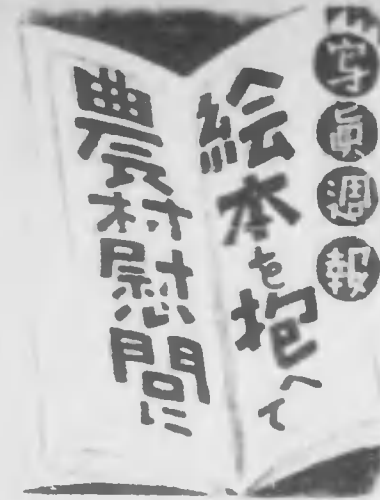


「まあ、よくこんなになるまで、ホッホッホ……」でも僕本當のお母さんみたやうな気がして、つい、頼んだんだけど、困つちやつたな」作業場では明るい笑ひが賑やかに爆発して、山積したつくり物のせせと片づけられてゆく

「どう、おいしい、よく飲んで食べるんですよ」故郷にゐた時のやうに、一日お母さんと楽しく二つ食事を囲むことのできた少年達の胸にはきつと熱いものが込み上げたことであらう。甘えたいやうな、くすくすといふ氣持と一緒に



↑ 二日の勤勞で疲れた少年たちには掃除もさぞ大變だらう、と慈愛の眼は部屋のすみ／＼までも細かくばられて——
 ↓ 一日お母さんは一日息子のよこれ物洗濯に一生懸命だ。やがてさつぱりと洗ひ上げられたスボンや履衣を身につけるととき少年たちは日本の少年としての幸せをしみ／＼と感じることだらう、肌身に沁み入る日本の母の優しさを。
 ↓ 「お母さん、ご苦労さま、今度は僕達の親孝行ですよ、澤山召し上つて下さい」働き疲れたお母さん達に、少年工達のよろこびの氣持をくんだ會社側で用意されたおやつが、非番の少年達の給仕ですいめられる。お父さん役の勤勞部長さんも一緒にお茶の接待だ



うは戦くる明

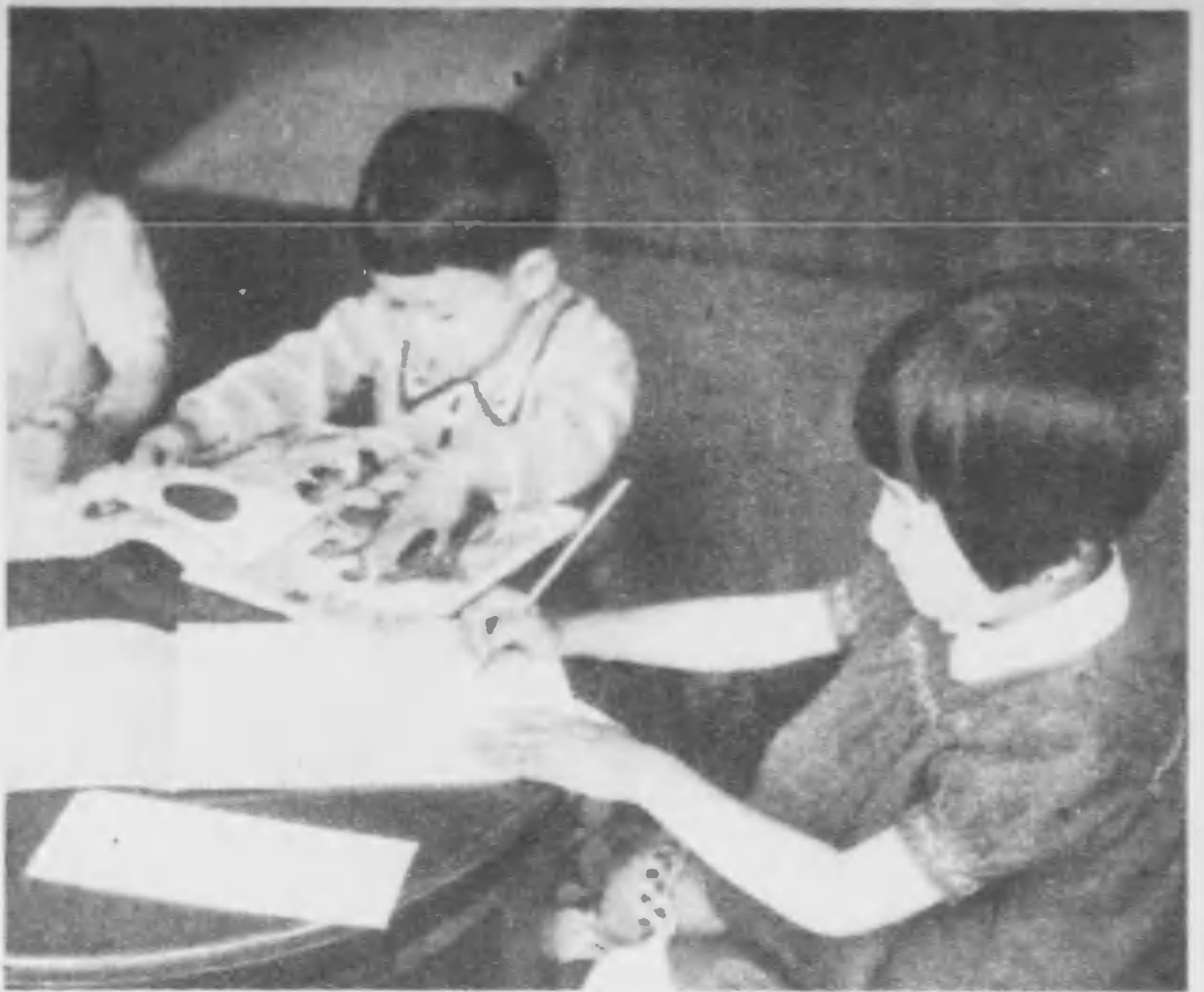
皆さん、采女間、都立区に書かれた
皆さんの勇ましい筆を拝見して、感動と
勇気のカリカは、今後は日本のため
に、ついに大戦を戦って、勝つた喜び
を伝えたいのですが、これまでで最も
たのしく、最も大切なことに満足
しています。
いまでもなく、ここに描つたのはほん
のほんの数にすぎません。このうなはま
はまだ山と谷と、このうなはまはま
さん、しっかりと結ばれた歴史の事実を
もつて、より一層、勇ましい筆を打つて下
さい。

千歳と山、感謝の山
「東京のお友達からお便りも、ご苦勞まで
「ナッテ」子供心にも農家の實情を感じて左

都立区からの贈物に感謝をあげ喜び合ふ子供たちを
前に、新しい増産の輝かされるはれてある...



一生懸命に幼い絵本の心をこめて、東京の子供の感謝文



撮影 古川侯十郎

昨年米の買収高は六千六百七十七万石、近來にない大豊作に銃後の兵站線は磐石の重みを加へた。農家の持たすまありがたう努力も足りない。肥料も不十分だった。だが、農家の武勇戦闘は、遂にあらゆる悪条件を克服してしまつた。あの大戦果の陰に、にじむ苦勞のほども思はれる。農家の持たすまご苦勞ま「口につくせない感謝の一端を託して、都立区から感謝文、感謝袋、繪本などが全国の農家に送られてきた。中央食糧協力会と大日本婦人會が共同主催で、六大都市を中心に食糧増産協力運動を展開、各家庭の感謝が二十五万の感謝袋、八十八万冊の繪本となつて現はれた農家への贈物である。

「お父さん、東京のお友達からね、決して一粒も無駄にいたしません。さきには米價の大幅引上げがあつた。農家の苦勞も決して忘れられてはひかない。『他達は今年も一粒でも多く、決して不自由はかけません、と書いてやいなさい』、かくて困窮をひいてゆく都立区と農家の心が、食糧増産に連帯して明るく勝ち抜いてゆくのだ。

「僕のもあけて下さい」繪本を架めに来た日輪の小母さんに喜んで供出



大東亞戰爭漫日誌
介選 川石



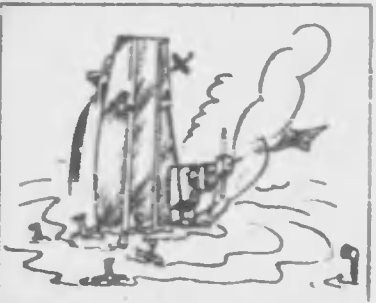
母を慰むる兵隊の軍服



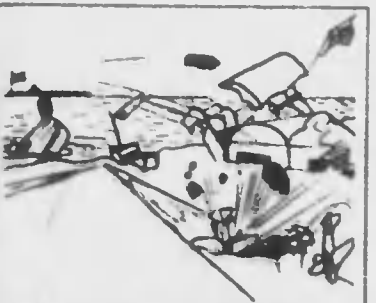
母を慰むる兵隊の軍服



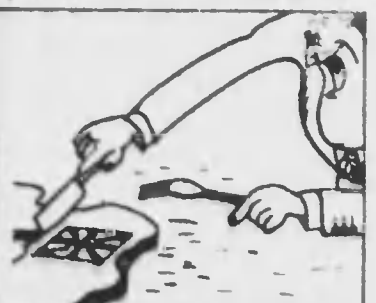
母を慰むる兵隊の軍服



母を慰むる兵隊の軍服



母を慰むる兵隊の軍服



母を慰むる兵隊の軍服



母を慰むる兵隊の軍服



照準器

決戦四十
八手の内

「木箱になつてソソとお役
にたつたぞ、ソソ、ソソ、
イン。」

しりり

【のたつかやど響たきに泉温 らあ】
【傳手おも前お てし 謝感に米お さ前り當】
【よだんるすひ】

り 棄 打

【ホすでみし製おてつあがんさ頭おも人二】
【で子つ米のしたわは買 てしうど やい】
【ホてしわごで見取もかし】

弾丸の手書

「アッ、なんだ、お前もか」
「あらッ貴方も弾丸切手賣ふのッ」

「あなた、どん／＼押さないよ、
ぶつかるよッ」



重大噴れの出征
物言はぬ戦士、軍用
犬も米英軍滅の気魄に
燃えて大き〜と出征
してあますが、長野縣
では大政翼賛會、夏野
壯年團が主眼となり、
趣味的、娯樂的香犬の
絶滅をはかる一方、こ
のほどの検査に合格し
た多数の軍犬に勇躍時
れの旗印をさしました



傾々できる石製
軍旗
岡崎市 太田正勝
四百年の傳統を誇り
石都岡崎の石工街一
は、銅鑼回収に勇んで
應召していつた尊徳
侯、楠公像その他の身
代りや、さては戦役勇
士の石碑の製作にと、
業者三百餘名をあひ
て、いま大奮の石製
報國を續けてゐる



文部省推薦映畫 國民映畫 撃攻總ルーポガンシ

陸軍省 陸軍協力
マライ派遣軍協力
大日本映畫製作株式會社製作
東亞侵略の最大據點として
敵イギリスが難攻不落の牙城
としたんだシンガポールは、
わが大東亞解放の聖戦が始ま
るや忠勇果敢なる皇軍の怒濤
の進軍により一掃にして潰え
去つた



★表紙
山頂の敵が必死に撃ちつ
け、弾丸は大地を割し、煙を
巻き、マライのやうに誇り
、部隊はこの弾丸のメ
ノールをじつと身を伏せて
耐へた、森林に死の静寂が
つづく
安樂に 前へッ
隊長のあの美しい姿が
なくなる、いし下るか、勇士
たを上げ、ひびにキッ、山
頂を這へて、その驚愕を
のこす、その驚愕を
北亞細亞國境から

訂正 本誌前巻(五月五日発行)第
五頁下段の寫眞説明中、昭和十三
年度の出生數「千九百二十万人」
とあるのは「百九十二万人」の誤
りにつき訂正いたします

若人よ大空へ



操縦生養成所
(航空機乗員養成所)

募集要項

修業年限

一ケ年(官費)

應募資格

年齢 自大正十二年十二月二日
至大正十五年十月一日

間ニ出生ノ者

學歷 國民學校高等科又ハ中等
學校第二學年以上ノ修了
者

募集ノ切

昭和十八年六月十日

詳細ハ志願者心得参照ノコト
(最寄郵便局又ハ航空機乗員養成所へ請求ノコト要郵券四錢)

航空局

寫眞週報
(禁轉載)

昭和十八年五月
十二日 印刷發行

情報局
東京市墨田区
水田町一ノ一

印刷所
内閣印刷局
東京市墨田区入子町

| 所 込 申 | 價 定 |
|-------------------------|---|
| 全國各地官報 販賣所 | 一部十錢 (送料一錢) |
| 書店・賣店 新聞販賣店 寫眞材料店 | ▲外國郵送ニ依 ル地域ハ送料 共一部十九錢 ▲依約配送希望 ノ方ハ一部十錢 (送料一錢)ノ割 合を以テ前金 添へ御申込下 さい ▲特大號の場合ハ 其ノ都度御拂込 金より差額を申 受けます |

前線慰問に本誌を
お読みになつたら本
誌を前線慰問に送り
ませう。送料は内地
と同様で帯封あるひ
は封封にして第三種
と明記すれば、一部
一錢です。

内閣印刷局印刷發行

寫眞週報 昭和十八年五月十二日 印刷發行 東京市墨田区水田町一ノ一 情報局 航空機乗員養成所 航空局印刷局印刷發行 第百七十一號